

**第7期第4回（令和4年度第4回）多治見市子どもの権利委員会
議事要旨**

I. 開催日時：令和5年2月17日（金） 13時30分 ～ 15時00分

II. 場所：多治見市役所本庁舎 2階大会議室

III. 出席者（敬称略）

<出席委員> 加納誠司、水野重信、浅井陽子、清水直美、寺島和希、小池憲弘、渡邊恵子

<欠席委員> 野尻紀恵、水野知久

<事務局> 環境文化部長：伊藤徳朗、くらし人権課長：加藤直美

くらし人権課：今井光春、中上あゆみ

IV. 内容

はじめに

【議題】

1. 子どもの権利に関するアンケート調査（令和5年度実施）について【資料1-①②③】
2. その他

【資料】

資料1-①：子どもの権利に関するアンケート調査について

資料1-②：子どもの権利に関するアンケート調査項目一覧（子ども用）【案】

資料1-③：子どもの権利に関するアンケート調査項目一覧（おとな用）【案】

○ はじめに

○ 会議及び議事録の公開、会議の録音について（事務局説明）

【議題】

1. 子どもの権利に関するアンケート調査（令和5年度実施）について

事務局（説明…資料1-①②③）

会長 まず、検討に入る前に、事務局の説明に対して委員のみなさまからご質問等があればお願いしたい。

委員 アンケートの実施時期について、先ほどの事務局の説明では9月上旬から中旬だとあったが、夏休みが終了した後は体育祭等の取り組みもあり、子どもたちも忙しくなる。回答率を上げたいのであれば、夏休み期間中の8月上旬から中旬に実施した方が良いと考える。

事務局 学校の行事予定が分からないため、夏休み終了後すぐに実施した方が子どもたちも落ち着いて回答できるのではないかと考えたが、ご意見をいただいたので8月上旬から中旬にかけて実施できるように準備する。

委員 実施時期を9月にされた理由について、夏休みが終わって学校が始まる時期は、子どもが苦しい、つらいと思う場合が多いため、そのような子どもの声を聞きたい

と考えたのか。自殺や不登校が増える時期でもあるため、あえて9月にアンケートを実施されるのかと考えた。回答率を上げたいのであれば8月実施かと思うが、どのような目的でアンケート調査を行うのかによって実施時期が変わるのではないか。

事務局 事務局としては、子どものこころの変化に合わせたのではなく、前回の調査で低かった回答率を少しでも上げたいと考え、実施時期の案を出した。

会長 「子どものこころの状態が変化する」というご意見は、大変大切な視点である。一方、8月31日は自殺人数が一番多い日であり、夏休みはいろいろなことを考える時でもある。夏休み期間は子どもが散漫になる傾向もあるので、送付する封筒の色や文字の色を変えて目立たせる等の工夫をし、夏休み期間中に調査を実施するというところでよろしいか。

— (承認) —

会長 次に、検討事項についてご意見をいただきたいと思う。事務局が整理した部分を中心に話し合いたい。まず、子ども用アンケート調査項目一覧(資料1-②)1ページ目「あなた自身のことについておたずねします」の問1について、前回の令和元年度までの調査では性別を聞いてきた。第3回委員会までに「性別を聞く必要があるのか」といった議論になり、「令和5年度の調査では性別を聞かない」という結論が出て、今日の委員会での資料が提供された。しかし、その後、性別による経年比較が表れる質問がいくつかあることが分かった。今回の資料では、特に性別による違いが顕著に表れている質問項目(問4・5・6・7ほか)には緑色の網掛けがしてある。もし、令和5年度に実施するアンケートで性別を聞かない場合、性別での差を追うことができなくなってしまう。前回の委員会では性別を聞かないという結論が出たのだが、改めてメリット、デメリットを踏まえたうえで、性別を聞いた方がよいのか、聞かなくてよいのかをご意見いただきたい。

委員 例えば、問6「不登校についてどう思いますか」という質問について、市内の中学校でも女性の方が不登校は多い傾向がみられるため、「本人の意思だからいい」「いろいろな理由があるから仕方ない」という回答が多くなると思う。その反面、男性は「なぜ学校に来ないんだろう」と考え、「不登校の原因を解決して、学校へ行くべきだと思う」と回答する人が多いかもしれない。しかし、あえて性別を聞く必要はないかと考える。

委員 性別によって回答結果に差があるという点については、前回の調査結果報告書37ページに「学校に行きたくないと考えた原因」の結果が掲載されている。女性は「友だちとのこと」の割合が36.9%である一方、男性は8.9%であり、大きな差が生じていることが分かる。これだけの差が出てくるようであれば、やはり性別を聞いた方がよいのではないかと思う。

委員 性別を聞く質問をやめることはいつでもできるので、質問によって性別での差がみられるのであれば、今回は性別を聞いてもよいのではないか。

委員 このアンケート結果をどう活用するかによるかと思う。学校では、性別によってアンケート回答に差がある場合には、結果内容を把握し、指導に生かしている。性別によるアンケート結果の内容を公表することによって、例えば親子をこのように

支援する等といった上手く作用することがあるのであれば、性別を聞いてもよいと思う。とにかくアンケート結果の活用方法によるのではないか。

委員 学校に行きたくないと思った原因は、「友だちとのこと」が全体では25.5%であり、性別で見ると女性が36.9%、男性が8.9%となっている。しかし、この結果から「男性は割合が少ないから大丈夫だ」ということではないと思う。数値を見ることによって、分かりやすい部分もある反面、軽視されてしまうこともあるかもしれない。男性であろうが女性であろうが、「25.5%の子どもが友だちとのことが原因で苦しんでいる」という事実が大事なことであるため、性別にこだわる必要はないのではないか。

事務局 ご意見はその通りかと考えるが、委員のみなさまには、このアンケート調査の結果を受けて、第4次子どもの権利に関する推進計画の策定をしなければならないことを念頭に置いてご議論をお願いしたい。性差による結果内容を分析し、施策の内容に反映させていくのであれば、性別が分かるようにしなければならないと考えている。性差の回答内容の公表については別の問題であり、誤解を与えるようであれば調査結果報告書には性別での分析は掲載しないという方法もある。

会長 性別による経年比較を調べたとしても、市民に公表する時は、性別は関係なく全体での結果を掲載するという方法もあるということだろうか。

事務局 そのとおりである。

会長 アンケート調査結果報告書は市民に公表しているのか。

事務局 これまでアンケート調査結果報告書は市民に公表しており、推進計画の中でも性別による回答の違いを紹介している。

会長 このアンケート調査については、時間をかけてアンケートに答えてくれる子どもとおとなに対して結果を公表し、子どもの権利に関する推進計画に反映させていくという意味合いがある。これまでの経年比較として、結果内容にどんな比較、特徴があり、今後どのような方向性をもって子どもの教育や福祉に関する事業を進めていかなければならないのかを考えていくうえで、やはり性別は聞いた方がよいと考える。調査結果の公表までにはまだ時間があるので、どのような形で公表するのかについては委員のみなさまと今後話しあっていきたいと思う。

事務局 アンケート調査結果報告書及び推進計画での性差によるアンケート調査結果内容の公表については、この委員会でご意見をいただきながら考えていきたい。

会長 それでは、性別を聞く場合の回答選択肢についてご意見いただきたい。令和元年度調査では、「女性」「男性」「答えられない」の3つの選択肢となっていた。第3回委員会では、この質問に答えづらい子どもに配慮して、質問することをやめるという議論になった。しかし、今回改めて性別を質問することとするならば、本当にこの聞き方でよいのかは考える必要があるがいかがか。

委員 男性でも女性でもない、答えないという意味表明をすることは大事だと思うが、「答えられない」ではなく「答えたくない」の方がよいと思う。ほかの調査の場合でも「答えたくない」の方がよく見る。

委員 テレビ番組企画の応募の時に性別を聞かれるが、「女性」「男性」「その他」「回答しない」の4つの選択肢であり、テレビ局も考えたなあと感じる。先ほどの意見と同様、「答えられない」より「答えない」の方がよいと思う。

会長 「女性でも男性でもない」という意思表示と、そもそも「答えたくない」という意思表示のため、4つの選択肢を作った方がよいかもしれない。

事務局 先日、市が男女共同参画講演会を開催したが、その時のアンケートでは、質問は「あなたの性別はどちらですか。（ご自身が認識する性でお答えください。）」、回答選択肢は「女性」「男性」「（ ）」とした。

委員 答えたくないわけではなく、男性とも女性とも言えないという人はいるので、「その他」という選択肢があることはよいと思う。

委員 「女性」「男性」「（ ）」の選択肢よりも、「答えたくない」や「その他」の方がよいと思う。

会長 回答選択肢を「女性」「男性」のほかに、「その他」または「どちらでもない」、「答えたくない」に分けるのがよいのではないか。「どちらでもない」はあまり合理的ではないだろうか。「女性」「男性」以外を選択する場合は、子どもは勇気を出して回答を選択していることを認識し、本人に寄り添った言葉にする必要がある。「その他」か、「どちらでもない」か、どちらがよいか、ご意見をいただきたい。

委員 「その他」の方がよいと思う。「どちらでもない」という選択肢は、「女性」「男性」の視点が見え隠れしているように感じる。

会長 性別の選択肢は「女性」「男性」「その他」「答えたくない」の4つにしてはどうだろうか。

委員 「答えたくない」より「回答しない」の方がよい。

会長 それでは、「女性」「男性」「その他」「回答しない」という選択肢でよろしいか。

— (承認) —

会長 先日ある機関へ提出する書類に、性別を答える質問があったが、「男性」「女性」しか選択肢がなかった。書類を作成した世代の特徴なのかもしれないが、この委員会のような議論はなかったのだろうかと感じる。次に、問10「あなたはいじめを受けたことがありますか」であるが、いじめの定義について、文部科学省のホームページから子どもにも理解しやすい表現に変えて記載してあるが、委員のみなさまのご意見をいただきたい。

委員 対象の10歳から17歳の子どもは、学校で年に数回いじめアンケートを行っており、その時に「いじめとはどういうことか」という説明を行っているため、資料案にある内容で十分理解できると思う。

会長 それでは、問10のいじめの説明については、資料案のとおりとするということではよろしいか。

— (承認) —

会長 次に、問21と問22について、今回から子どものサロンが削除されたがよろしいか。

— (承認) —

- 会 長 次に、問 23「次のような子どもの権利の中で、特に大切だと思うことは何ですか」については、大切な質問だと思う。資料ではいくつか案が出ているが、まず「⑤命を大切にすること」という選択肢を追加している。また、「⑦子どもが知りたいと思うことが隠されないこと」「⑨人と違う自分らしさが認められること」の表現がこのままでよいのか、委員のみなさまのご意見をいただきたい。
- 委 員 「⑨人と違う自分らしさが認められること」については、「自分らしさが認められること」でよいのではないか。「人と違う」というのは、否定的な感じがする。自分らしさや自分がこうだと思っていることを認められたいという思いが強ければ、「人と違う」は必要ないと思う。
- 委 員 いじめや虐待が多い中で、「⑤自分も他の人も命を大切にされること」は必要だと思う。「⑨人と違う自分らしさが認められること」は、先ほどの議論内容から考えると、性的マイノリティの方々のことを考えているのではないかと思うがいかがか。
- 事 務 局 「人と違う」は、性的マイノリティの方々のことのみを考えているのではなく、「みんな違ってみんないい」というように、それぞれ違う「個性」を尊重するということを意味している。
- 会 長 つまり、「自分らしさ」は「個性」ということである。小学5年生程度の子どものにとっては「自分らしさ」の方が分かりやすいかもしれない。
- 事 務 局 良いところ、悪いところ、個性も全部ひっくるめて「自分らしさ」である。
- 会 長 初め、自己肯定感にもつながる「自分のよさ」という表現に変えてみてはどうかと考えた。しかし、事務局の説明を聞くと、やはり「自分らしさ」の方がよいかもしれない。
- 委 員 「⑦子どもが知りたいと思うことが隠されないこと」について、なかなかイメージがつかないので、この選択肢は必要ないのではないか。
- 会 長 「自分が知りたいと思うことを知ることができる」という意味だと思うがどうか。あるいは、「子ども同士の中で仲間はずれにされないこと」ということだろうか。
- 委 員 子どもの権利の中にある「知る権利」について質問している。例えば、あなたは学校で相談室を利用することができることを知っているか、故意的に学校側がそのことを教えていないことはないのか、ということを知りたい。子どもには休んだりする権利があるにもかかわらず、おとなが情報提供しないと知ることができないことが子どもの世界にはたくさんある。おとなが意図的に情報を隠さない、隠されないことが大切だということを知っているか、という内容だと思う。ただし、そのことを伝える時に、子どもに分かりやすい表現にしないと意味がない。
- 事 務 局 今のご意見のとおりであるが、この選択肢を読んで伝えたいことが分かるのか、ということが気になった。
- 会 長 発達段階があがるにつれて、いろいろな捉え方をしてしまう選択肢かもしれない。ご意見を聞いて、このアンケートは自分を主体にして回答するものであるため、選択肢の主体を「子どもが」を「自分が」に変えてはどうか。「自分が知りたいと思うことが隠されないこと」の方がよりストレートに伝わるのではないか。

— (承認) —

会 長 次に、新しく追加した選択肢「⑤自分も他の人も命を大切にされること」について、委員のみなさまのご意見をいただきたい。子どもの権利の観点からいえば、自分の命も守って、他の人の命も大切にしなければならない意味合いがあるため、この表現がよいと思う。

— (承認) —

会 長 それでは、問 23 の選択肢全体を見ていただき、気になる点や修正した方がよい点など、ご意見があればお聞きしたい。

委 員 「⑩学校でのことやまちづくりに自由に参加できること」について、「学校でのこと」がどういう意味なのかがわからない。

会 長 行事のみに絞っていないと思われる。一方、「まちづくり」はかなり限定的なことばであるが、行事か、取り組みか、ということだろうか。事務局の考えを教えてください。

事務局 子どもの権利の中の「参加する権利」について聞いている。たぶん、子どもの権利条例に規定しているたじみ子ども会議が、まちづくりについて意見を言うことができ市長へ意見書を提出することを頭に置いて、あえて「まちづくり」という言葉を選択肢に入れたのではないか。

会 長 やはり「学校でのこと」は、表現的にあまり言わないので、「学校での活動」としてはどうか。「活動」にすれば、学校での教育部分のみに限定されず、すべて含まれると思う。それでは、「学校での活動やまちづくりに自由に参加できること」という表現に変更してよろしいか。

— (承認) —

会 長 事務局案以外で、質問項目、回答選択肢について委員のみなさまからご意見があればお願いしたい。

委 員 4月1日から学校生活の基本マスクをしない生活となり、5月8日からは新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられると、アンケート調査を実施する8月頃には新型コロナウイルス感染症は収束していると思われる。その中で子どもたちに聞きたいことは、「新型コロナウイルス感染症が収束して日常が戻ってきたが、今あなたがコロナ禍から変わって一番うれしいことは何か」である。例えば、マスクなしで生活できること、給食を友だちとおしゃべりしながら食べられること、家族でいろいろなところへ旅行に行くことができるなど、コロナで苦しんだことを子どもたちがどのように思っているのかを聞いてみたい。ただし、この質問は今回の調査のみになってしまう。

事務局 今回限りの質問があっても問題はない。

委 員 実際のところ、アンケート調査を行う8月に新型コロナウイルス感染症がどんな状況になっているかが分からないため、質問することは難しいかもしれない。

委 員 ヤングケアラーについて、子どもの権利が守られているかどうか、例えば、外国人であれば通訳に駆り出されて子どもらしい生活を送れていないといった調査を行う必要はないか。

会 長 ヤングケアラーについては第2回委員会の時に話題になっている。

事務局 ヤングケアラーについては子ども支援課が担当課となるが、今のご意見のような調査を行っているか不明であるため、くらし人権課から子ども支援課へ確認をする。

会長 マスクを取るか取らないかの時期になると、子どもの権利が守られているかどうか分かると思う。次に、おとな用のアンケート調査について、ご意見をいただきたい。では、まず問4については、事務局案として「あなたは子どもの話をきいたり、子どもと一緒に遊んだり、子どもと関わる時間が十分にありますか」という質問に変更になっている。この質問の仕方であれば、すべての年齢層の子どもを持つ保護者が回答できると思うがいかがか。

— (承認) —

会長 続いて、問9のいじめに関する質問であるが、子ども用アンケートと同様、いじめの説明を掲載してあるが、この説明内容でよろしいか。

— (承認) —

会長 次に、問10「子どもはおとなから【10-1】に挙げられているようなことをされて「いやな思い」をしたことがありますか」という質問について、質問の仕方、回答選択肢も含めて委員のみなさまのご意見をいただきたい。

委員 質問方法としては、「【問10-1に挙げられているようなこと】という表現を使ってもよいのではないかと思う。問10-1の回答選択肢の中に、面前DVの内容に関わる項目があってもよいのではないか。ここ数年、児童虐待として面前DV報告件数が増加しているため、例えば「子どもの前でママとパパがケンカする」という項目を入れてはどうか。

会長 面前DVは大きな社会問題となっている。

委員 問11「あなたが児童虐待と感じるものをすべて選んでください」という質問の選択肢には、「子どもの見える場所で、配偶者や他の家族へ暴力をふるう」がある。「きちんとした食事を与えない」といった児童虐待の内容も入っているが、問10にもそのような選択肢を入れることができるだろうか。

会長 では、問10についてご議論願いたい。保護者がアンケートに答えるので、面前DVの内容をどのような表現にするのかを考える必要があるが、踏み込んで質問してもよいのであれば選択肢に追加してもよいのではないか。

委員 面前DVについては対応などの取り組みを始めている段階である。どの家庭でも夫婦ゲンカは少なからずあるが、その後子どもとどう関わっていくのか、というところにつなげていきたい。保護者が「子どもの前で夫婦ゲンカをすることが虐待である」と認識しているのかを意識調査するのであれば、必要な選択肢ではないかと思う。児童虐待件数は増えているが、市民はどう認識しているのかを知りたい。この質問は、おとな側がどのようなことを児童虐待と捉えているのかの意識調査であり、そこに検挙件数との差が出てくるのであれば、例えば周知が必要であるということになる。児童虐待に関わる件数については、警察が報告しているとの話を聞いた。警察が踏み込まなければならないほどの夫婦ゲンカをするというのはどのような夫婦関係なのか、ということがポイントになる。女性の権利として、暴力を振るわれたら警察に連絡するようと言われて、警察が現場へ行くと子どもと一緒にいるから、児童虐待だという話になる。面前DVの項目がないということは、多治見

市が面前 DV を児童虐待と認識していないのではないかと思われる可能性がある。選択肢としては、「子どもが夫婦ゲンカを見てしまうこと」といった表現ではどうか。

会 長 「子どもの前で家族がケンカすること」ということだろうか。面前 DV は子どもにとって大きなストレスであると捉えるのであれば、選択肢に加えてよろしいか。

事務局 問 11 の回答選択肢の中にある「③子どもの見える場所で、配偶者や他の家族へ暴力をふるう」の言葉を使ってはどうだろうか。一度事務局で案を作り、委員のみなさまにご意見をうかがいたいと考えるがいかがか。

委 員 子どもの前で家族がケンカすることについて、おとなに聞くだけでなく、子ども用のアンケートの問 12-1 にあるおとなのすることや言うことで、大変いやな思い、つらい思いをした内容にも追加してはどうか。ケンカしてほしくないという子どもの思いを聞くことにより、施策にも反映させることができると思う。

会 長 子どもにも意見表明する権利があるため、選択肢に追加することはよいと思う。子どもも大学生ぐらいの年齢になると、家族がケンカしていたといった話をできるようになるが、やはり大変大きなストレスになっている。次に、問 22 と問 23 については、子ども用アンケート問 23 に合わせて表現を変更するというところでよろしいか。

— (承認) —

会 長 改めて子ども用アンケートについて、何かご意見があればお願いしたい。

委 員 問 5 や問 19 について、現在多治見市では、公民館のほかに交流センターもあり、この施設を利用する子どももいると思う。

事務局 交流センターは、公民館と児童館の機能を併せ持った施設である。複数の機能を持ち、多世代が交流し活動できる場所であるが、選択肢に加えた方がよければ対応する。

委 員 子ども情報センターもあるが選択肢にはない。

事務局 子ども情報センターは、図書館機能を持つ施設であるため、「図書館」の選択肢に補記するなど、事務局で案を改めて作成する。作成した案については、委員のみなさまへ改めてお送りさせていただくので、ご意見をいただきたい。

2. その他

①第 7 期第 5 回 (令和 5 年度第 1 回) 委員会について

令和 5 年 6 月ごろ開催予定

※新年度を迎えてから日程調整を予定している

(閉会)